

日時：平成26年9月7日（日）11:00～13:00

場所：宮崎市佐土原地区交流センター

第23回宮崎海岸市民談義所

議事次第

本日の流れ

《埋設護岸（サンドパック工法）現地見学会》

《室内談義》

1. 宮崎海岸の侵食対策の概要
2. 第22回宮崎海岸市民談義所の振り返り
3. 台風通過に伴う埋設護岸の変状について
4. 宮崎海岸の工事と海岸の状況変化
5. 今後の予定
6. その他

国土交通省 宮崎河川国道事務所

宮崎県

本日の流れ

1. 宮崎海岸の侵食対策の概要
2. 第22回宮崎海岸市民談義所の振り返り
3. 台風通過に伴う埋設護岸の変状について
4. 宮崎海岸の工事と海岸の状況変化
5. 今後の予定
6. その他

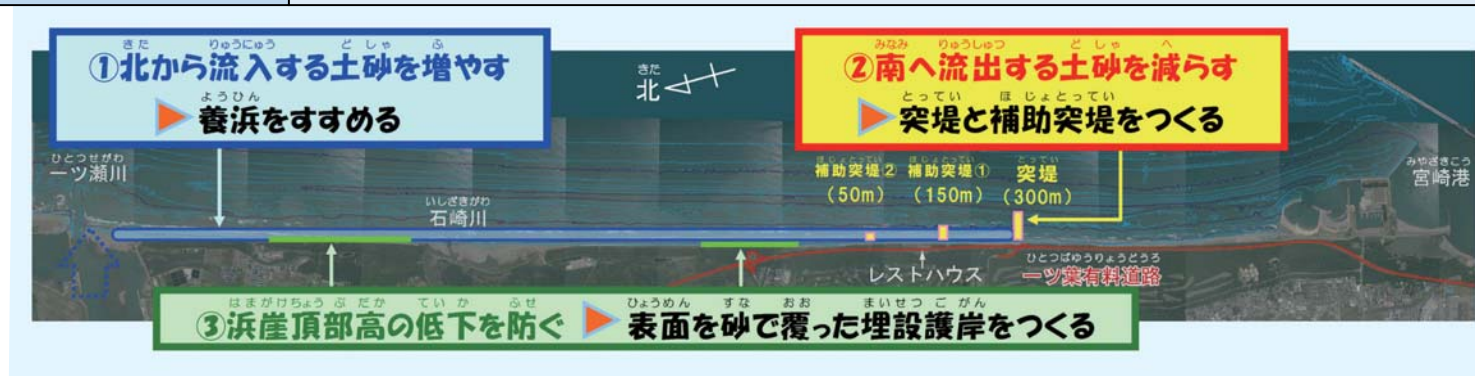
1. 宮崎海岸の侵食対策の概要

宮崎海岸の侵食対策

- 5 -

たいさく もくひょう
対策の目標

すなはま かいふく はまはば かくほ
砂浜を回復し浜幅50mを確保する。



よう ひん
養 浜

すなはま やしな りくじょう かいちゅう じんこうてき
“砂浜を養う”ために陸上または海中へ人工的に
すな い
砂を入れることです



とつ てい
突 堤

りく うみ む ほそなが の ていぼう
陸から海に向けて細長く伸びる堤防のこと
かいがんせん そ うご すな と
海岸線に沿って動く砂を止めることができます



まいせつごがん
埋設護岸

しぜん ていぼう さきゅう はまがけ
自然の堤防である砂丘がくずれないように、浜崖の
ねもと なみ まも すな なか う ごがん
根元を波から守る「砂の中に埋まった護岸」です



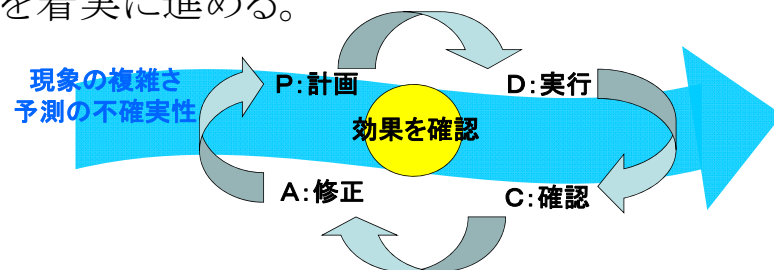
宮崎海岸侵食対策の技術検討の流れ

- 6 -

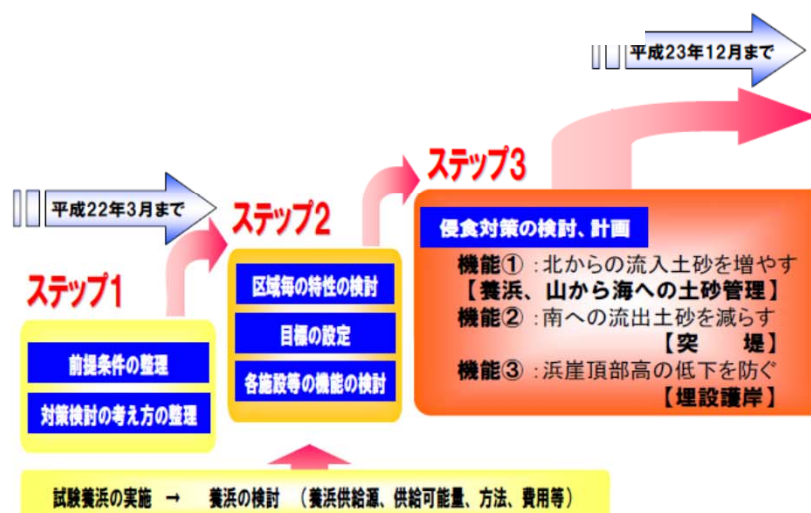
～技術検討から対策の実施と効果検証～

宮崎海岸ステップアップサイクル

どのような方法をとればよいかを検討・実施し、効果を確認しながら、修正・改善を加えて、対策を着実に進める。



宮崎海岸侵食対策は、
「侵食対策の検討、計画」から、
「侵食対策の実施、効果・影響の確認」の段階に。



ステップ4（対策の実施と効果検証）

修正・改善、工夫

対策の修正・改善、工夫の内容や
計画の変更について検討する。

効果影響の確認

各種調査を実施するとともに、併せて環
境・景観・利用の関係者からの声を聴くこと
により対策の効果・影響を確認する。

侵食対策の実施

機能①: 養浜、山から海への土砂管理
機能②: 突堤
機能③: 埋設護岸

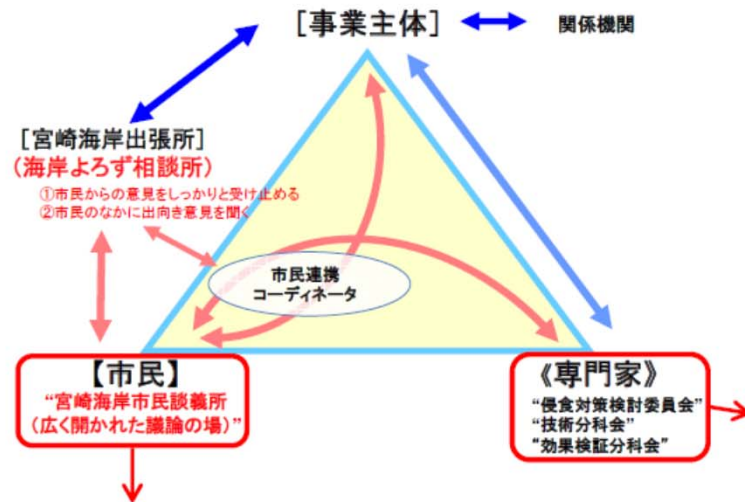
体制と運営方針

- 7 -

～委員会、技術分科会、効果検証分科会、市民談義所～

宮崎海岸トライアングル

宮崎海岸の砂浜の保全を目的として、行政・市民・専門家が三者一体となって進める。



侵食対策検討委員会

- ・今後は、侵食対策の計画段階から、侵食対策の実行・確認(必要に応じて修正)段階へと移行するため、委員会の設置目的を追加・変更して、現委員会を基本としつつ発展させた委員会を継続する。
- ・毎年1回以上開催し、調査結果等から、侵食対策の効果・影響を確認し、侵食対策の継続または修正の必要性等について協議する。

宮崎海岸市民談義所

- ・今後も「広く開かれた議論の場」として継続する。
- ・さらに、興味・関心のある多くの市民が参加できる機会を作っていく。
- ・市民と連携した調査も模索していく。
- ・調査結果の報告、侵食対策実施状況、それらの修正・改善等について談義していく。

技術分科会

- ・委員会の付託により、技術的な検討が必要になった場合に適宜開催し、検討する。

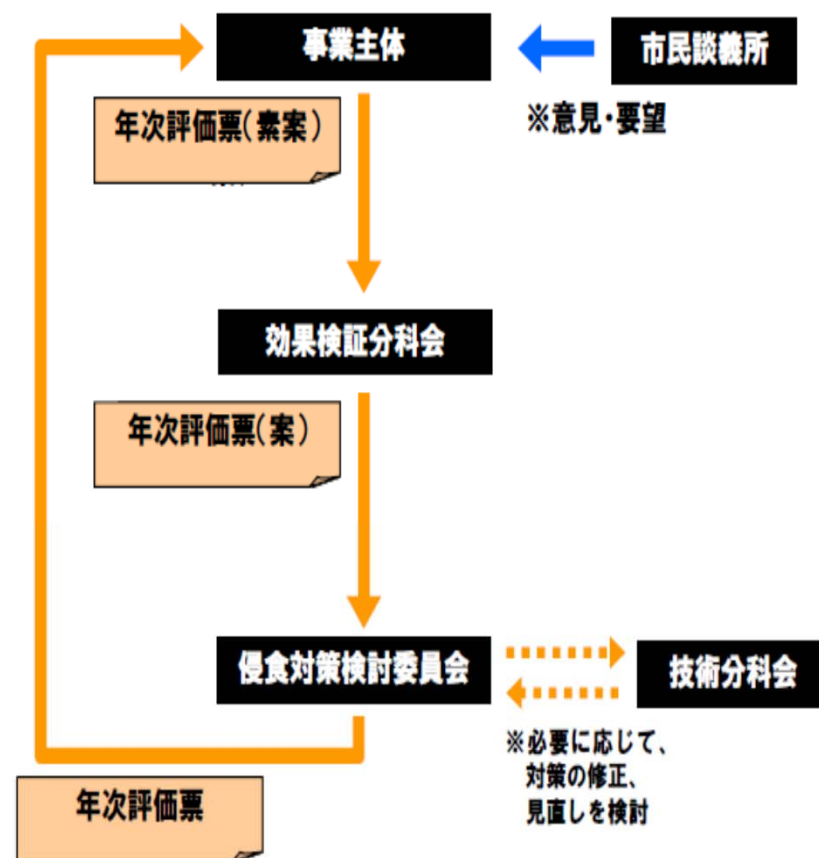
効果検証分科会

- ・委員会の付託により、毎年1回以上開催し、検討する。

侵食対策効果検証の全体フローと各所の役割

- 8 -

効果検証の全体フロー



➤ **市民談義所**は、調査及び工事に関する談義を行い、事業主体に意見・要望を伝える。

➤ **事業主体**は、調査結果及び談義を踏まえ、年次評価(素案)を作成する。

➤ **効果検証分科会**は、事業主体が作成した年次評価(素案)を検討し、年次評価(案)を作成し、委員会に報告する。

➤ **委員会**は、効果検証分科会が作成した年次評価(案)を検討し、最終的な年次評価を行う。

➤ **技術分科会**は、必要に応じて、対策の修正、見直しを検討する。

2. 第22回宮崎海岸市民談義所の振り返り



(1) 第22回宮崎海岸市民談義所の開催概要

- 10 -

①開催概要

- 開催日：平成25年10月2日（水）
- 場所：佐土原総合文化センター 研修室
- 参加した市民：33名
- 議事概要：

1. 宮崎海岸の侵食対策の概要
2. 第21回宮崎海岸市民談義所の振り返り
3. 技術分科会、効果検証分科会、委員会の結果報告
4. 侵食対策工事等の予定・地元説明
5. サンドバックについての解説
6. 今後のスケジュール

「技術分科会、効果検証分科会、委員会の結果」「侵食対策工事等の予定・地元説明」について報告し、質疑応答を行った。

さらに、佐藤委員長より「サンドバックについての解説」と題して、サンドバック工法に関する海外事例や今後の展望等に関する講演をしていただき、質疑応答を行った。



市民連携コーディネータによる進行



佐藤委員長の講演（サンドバックについての解説）の様子

(1) 第22回宮崎海岸市民談義所の開催概要

- 11 -

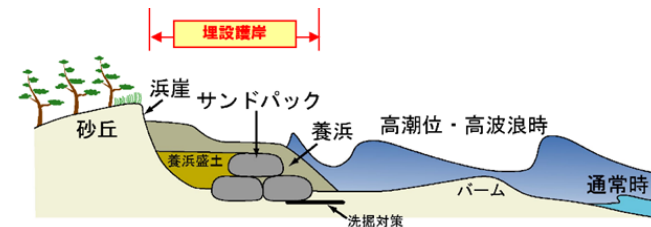
②佐藤委員長の講演(サンドバックについての解説)

✚ 説明の要旨

- 宮崎海岸では、侵食で浜崖が内陸側に後退するにつれて砂丘頂部の高さが低くなり、高波や津波に対して脆弱な海岸になってしまうことから、砂丘の急激な侵食を食い止める必要性が指摘されていた。
- サンドバックは、高波に対しても安定性を確保できる構造物として設計可能であること、背後の砂浜を保全する効果があることが室内実験でわかってきた。
- このような背景から、浜崖の急激な後退を防ぐ埋設護岸への適用を目指すこととなった。
- サンドバックの埋設護岸への適用においては、移動の抑制と洗掘による沈下の防止が課題であったが、それらの課題が埋設護岸の実用化に向けた様々な検討によりクリアされた。
- コンクリートに代わる素材としてサンドバックを埋設護岸に用いるという結論に至った。
- 国内では宮崎海岸が本施工として初の事例となるため、十分な監視体制のもとで科学的なデータを積み重ねることで、効果を検証していくことが必要である。

✚ 質疑・応答

講演の後、市民から「海外事例と宮崎海岸との違い」、「地盤沈下の考慮」、「洗掘対策」などについての他、多くの質問があり、佐藤委員長から回答を頂いた。



3. 台風通過に伴う埋設護岸の変状について



(1) 埋設護岸設置以降の経緯

- 13 -

- 平成26年1月 サンドバックの設置作業の完了
- // 3月 サンドバックの埋設完了
- // 7月前半 台風8号による波浪が来襲
- // 7月末～8月頭 台風12号による波浪が来襲
- // 8月6日巡視 埋設護岸に異常は見られず
- // 8月7日 埋設護岸の変状を発見
- // 8月8～9日 台風11号による波浪が来襲
- // 8月10日 埋設護岸の変状拡大を発見

(2) 台風11号の来襲

- 14 -

■ 台風11号の外力

- ・平成26年8月1日～2日にかけて九州の西側を台風12号が通過した後、8月6～9日にかけて台風11号による波浪が宮崎海岸に来襲し、サンドバック、アスファルトマットの変状が発生。

【サンドバックの変状が発生したと推定される期間中】

最も高かった潮位: T.P.+0.68m(8月7日2時) 宮崎港観測潮位

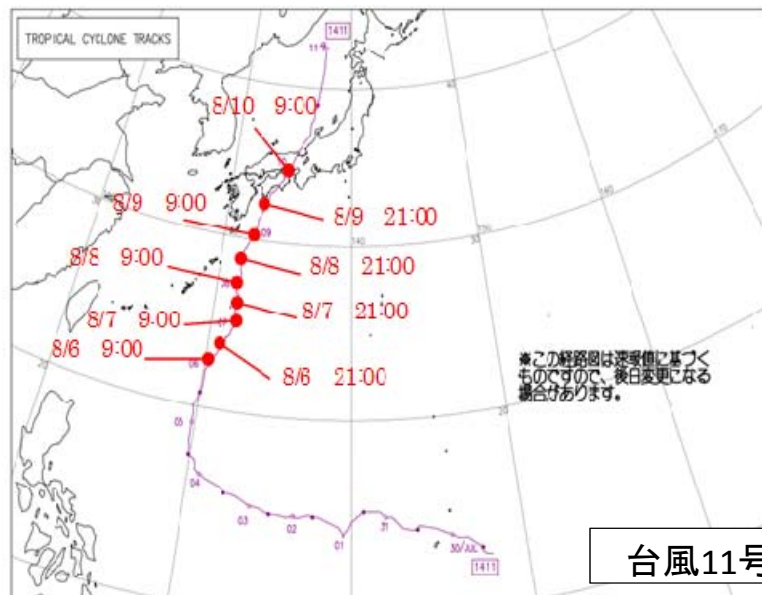
最も高かった有義波: H1/3=2.2m、T1/3=13.0s(8月7日5時20分) NOWPHAS宮崎日向灘沖GPS

波向: 期間を通じてほぼS方向(南からの波) NOWPHAS宮崎日向灘沖GPS

【台風11号通過時】

最も高かった潮位: T.P.+1.65m(8月9日17時) 宮崎港観測潮位

最も高かった有義波: H1/3=7.81m、T1/3=11.3s(8月9日13時40分) NOWPHAS宮崎日向灘沖GPS



サンドバックの越波状況(平成26年8月9日)

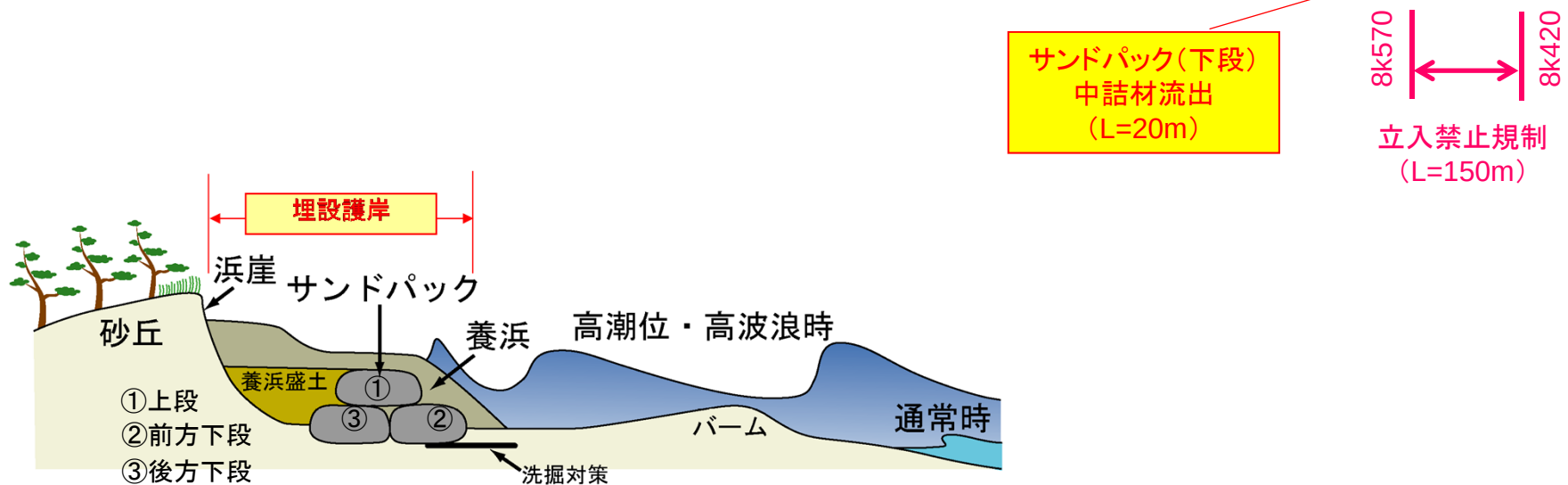
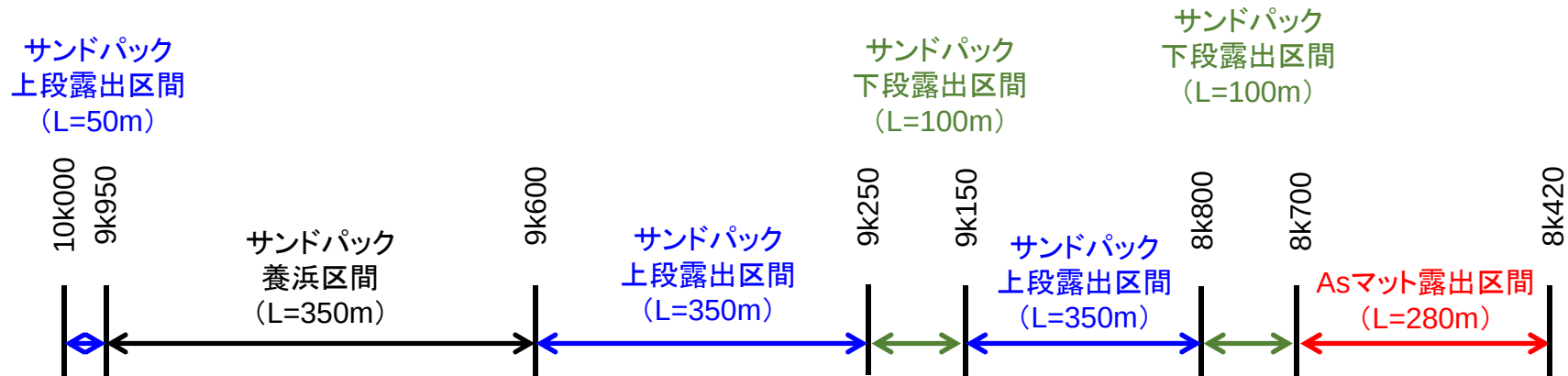


平成26年8月7日の状況

(3) 平成26年8月7日の状況

- 16 -

■ サンドパックスの露出



(3) 平成26年8月7日の状況

- 17 -

■ サンドバック平面図



サンドバック中詰材流出箇所(8k430)を南より望む



(3) 平成26年8月7日の状況

- 18 -

■ サンドバック平面図



サンドバック中詰材流出箇所(8k430)を北より望む



(3) 平成26年8月7日の状況

- 19 -

■サンドバック平面図



立入禁止措置状況

【サンドバック中詰材流出箇所(8k430)を南より望む】



(3) 平成26年8月7日の状況

- 20 -

■ サンドバック平面図



Asマット露出区間終点(8k700)より南を望む



(3) 平成26年8月7日の状況

- 21 -

■ サンドバック平面図



サンドバック下段露出区間起点(8k700)より北を望む



サンドバック(上段)

サンドバック(前方下段)

平成26年8月10日の状況

(4) 平成26年8月10日の状況

- 23 -

■ 埋設護岸による浜崖後退防止



↑ 石崎川

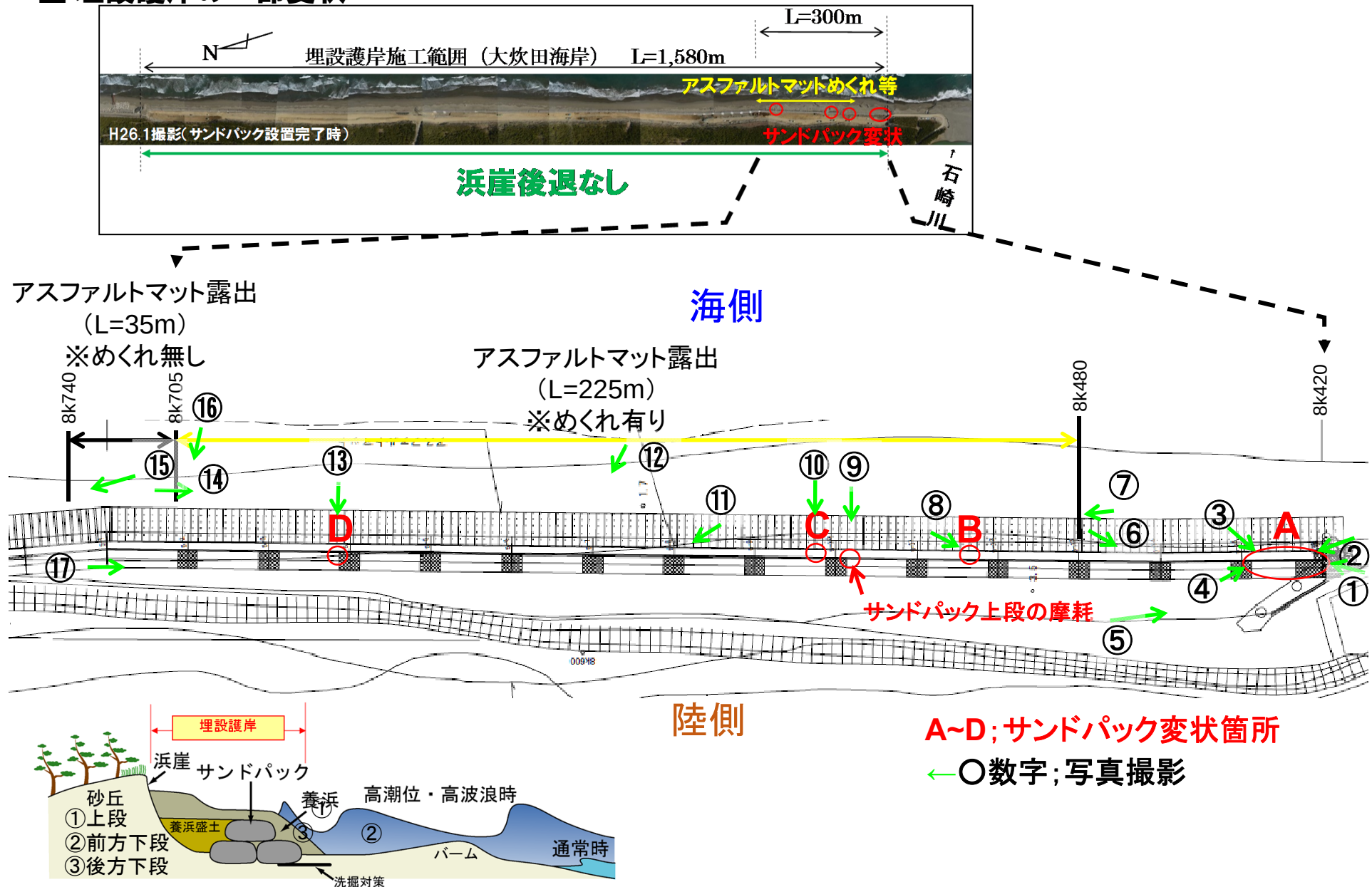


- ・多くの箇所でサンドパックが露出。波浪は作用するものの浜崖後退は生じていない
- ・背後養浜も概ね安定

(4) 平成26年8月10日の状況

- 24 -

埋設護岸の一部変状



(4) 平成26年8月10日の状況

- 25 -

■ サンドバック平面図



①; サンドバック変状箇所A



(4) 平成26年8月10日の状況

- 26 -

■サンドバック平面図



②;サンドバック変状箇所A



(4) 平成26年8月10日の状況

- 27 -

■ サンドバック平面図



③; サンドバック変状箇所A



(4) 平成26年8月10日の状況

- 28 -

■サンドバック平面図



⑤; サンドバック変状箇所A (背後養浜)

サンドバック中心（下段陸側）～段差; 約13.0m 段差～砂丘法尻; 約12.3m



(4) 平成26年8月10日の状況

- 29 -

■ サンドバック平面図



⑥；アスファルトマット露出



Asマット露出

(4) 平成26年8月10日の状況

- 30 -

■ サンドバック平面図



⑦ ; アスファルトマットめくれ



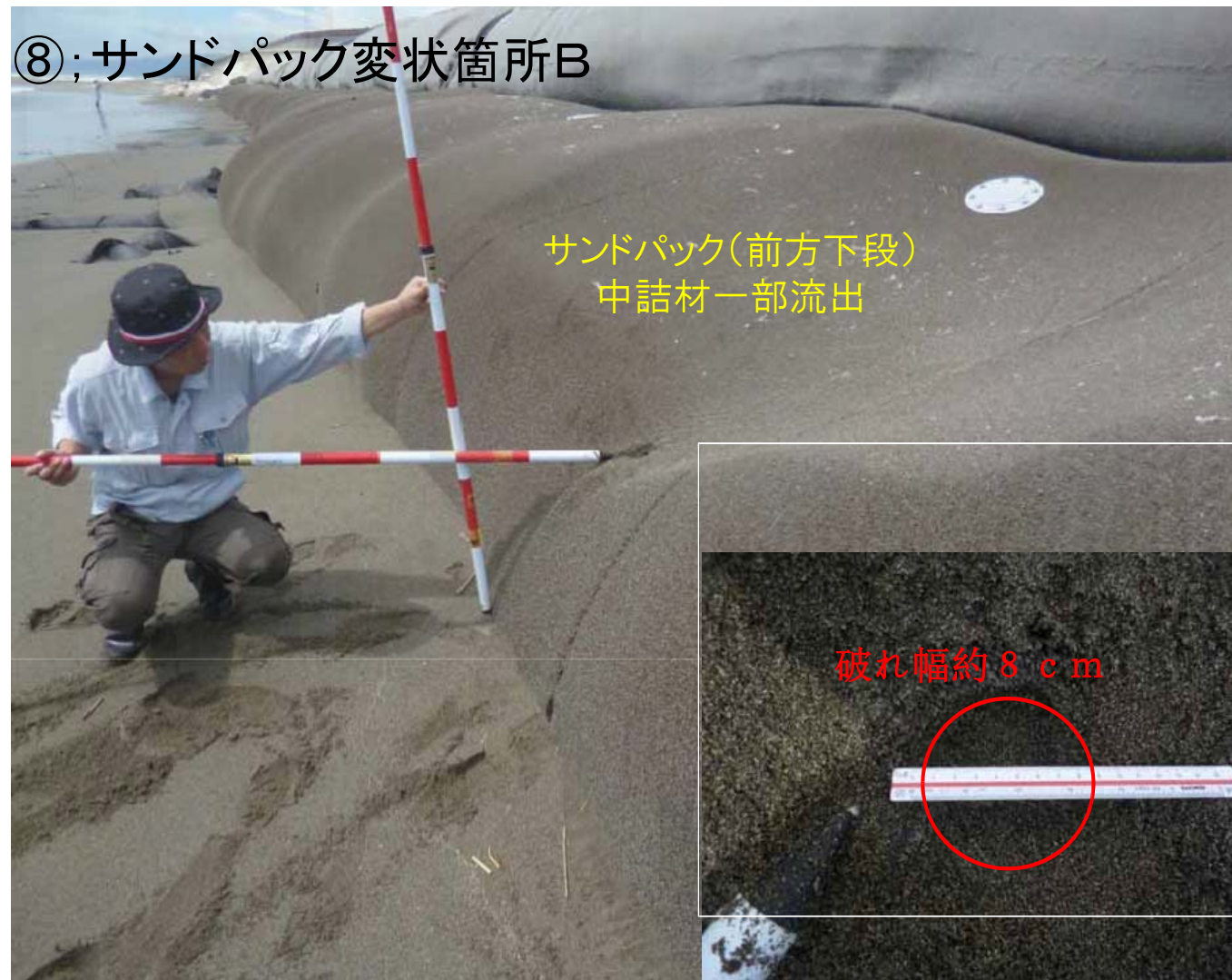
(4) 平成26年8月10日の状況

- 31 -

■ サンドバック平面図



⑧; サンドバック変状箇所B



(4) 平成26年8月10日の状況

- 32 -

■サンドバック平面図



⑨；サンドバック上段外側シート摩耗



(4) 平成26年8月10日の状況

- 33 -

■ サンドバック平面図



⑩; サンドバック変状箇所C

(4) 平成26年8月10日の状況

- 34 -

■ サンドバック平面図



⑪；アスファルトマット番線飛び出し

(4) 平成26年8月10日の状況

- 35 -

■ サンドバック平面図



(4) 平成26年8月10日の状況

- 36 -

■サンドバック平面図



⑬; サンドバック変状箇所D

※中詰材の流出箇所不明

サンドバック(前方下段)
中詰材一部流出

アスファルトマットの変形



(4) 平成26年8月10日の状況

- 37 -

■ サンドバック平面図



⑭ ; アスファルトマットめくれ



(4) 平成26年8月10日の状況

- 38 -

■ サンドバック平面図



⑮: アスファルトマット露出(めくれ無し)

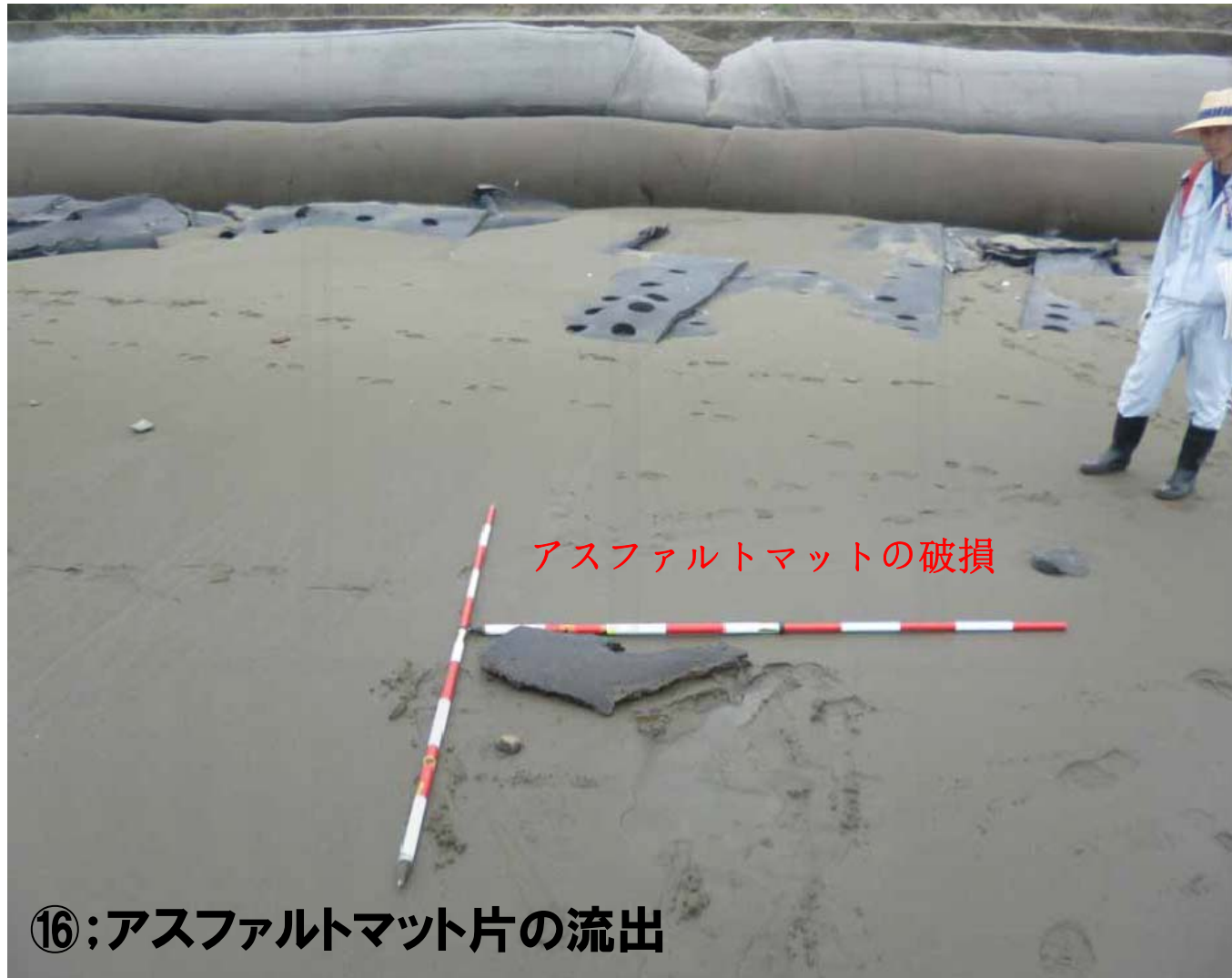


アスファルトマットの露出

(4) 平成26年8月10日の状況

- 39 -

■ サンドバック平面図



(4) 平成26年8月10日の状況

- 40 -

■ サンドバック平面図



⑰; サンドバック背後養浜状況



(4) 平成26年8月10日の状況

- 41 -

■ サンドバック平面図



埋設護岸全景(南側から望む)

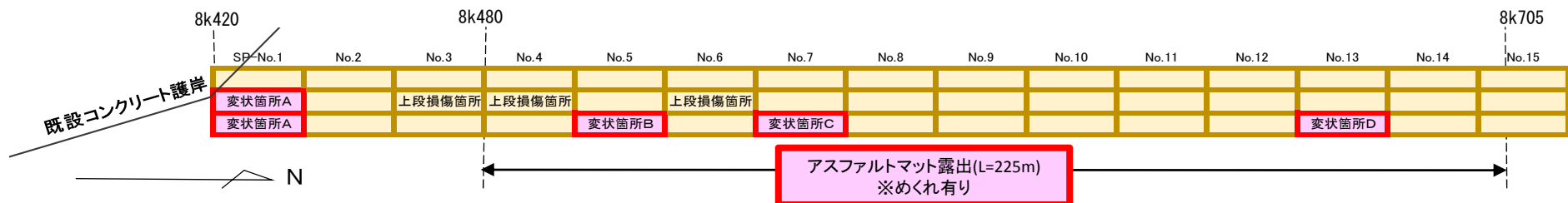


(4)平成26年8月10日の状況

- 42 -

■埋設護岸の損傷箇所

部位	下段サンドバック			
	変状箇所A(8/7発見)	変状箇所B(8/10発見)	変状箇所C(8/10発見)	変状箇所D(8/10発見)
8/10の状況	④:サンドバック変状箇所A 平成26年8月10日調査 国土交通省 宮崎河川国道事務所 	⑧:サンドバック変状箇所B 平成26年8月10日調査 国土交通省 宮崎河川国道事務所 	⑩:サンドバック変状箇所C 平成26年8月10日調査 国土交通省 宮崎河川国道事務所 	⑬:サンドバック変状箇所D 平成26年8月10日調査 国土交通省 宮崎河川国道事務所 
損傷状況	未確認であるが、中詰材がすべて流出しているため大規模な損傷が推定される。	破れ幅は8cmであり、縫製部以外で生じている。	破れ幅は5cmであり、縫製部以外で生じている。	未確認であるが、中詰材の流出状況から推定すると「変状箇所B」以上の損傷が推定される。
部位	上段サンドバック (8/10発見)	アスファルトマット(8/10発見)		
	⑨:サンドバック上段外側シート摩耗 平成26年8月10日調査 国土交通省 宮崎河川国道事務所 	⑦:アスファルトマットめくれ 平成26年8月10日調査 国土交通省 宮崎河川国道事務所 	⑪:アスファルトマット番線飛び出し 平成26年8月10日調査 国土交通省 宮崎河川国道事務所 	⑫:アスファルトマットめくれ 平成26年8月10日調査 国土交通省 宮崎河川国道事務所 
8/10の状況				
損傷状況	外側シートが摩耗により損傷(流出は生じていない)	Asマットのめくれ、ちぎれが生じている。また、番線の飛び出しも確認されている。		



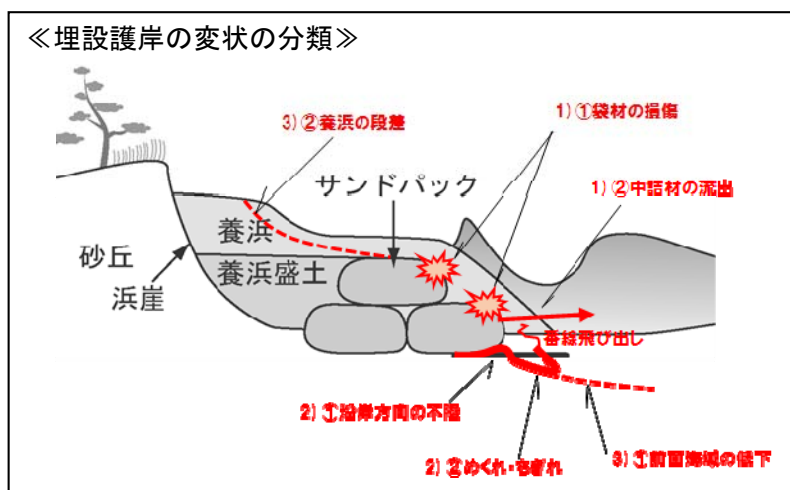
(5) 平成26年8月12日(台風11号通過後)の状況

- 43 -

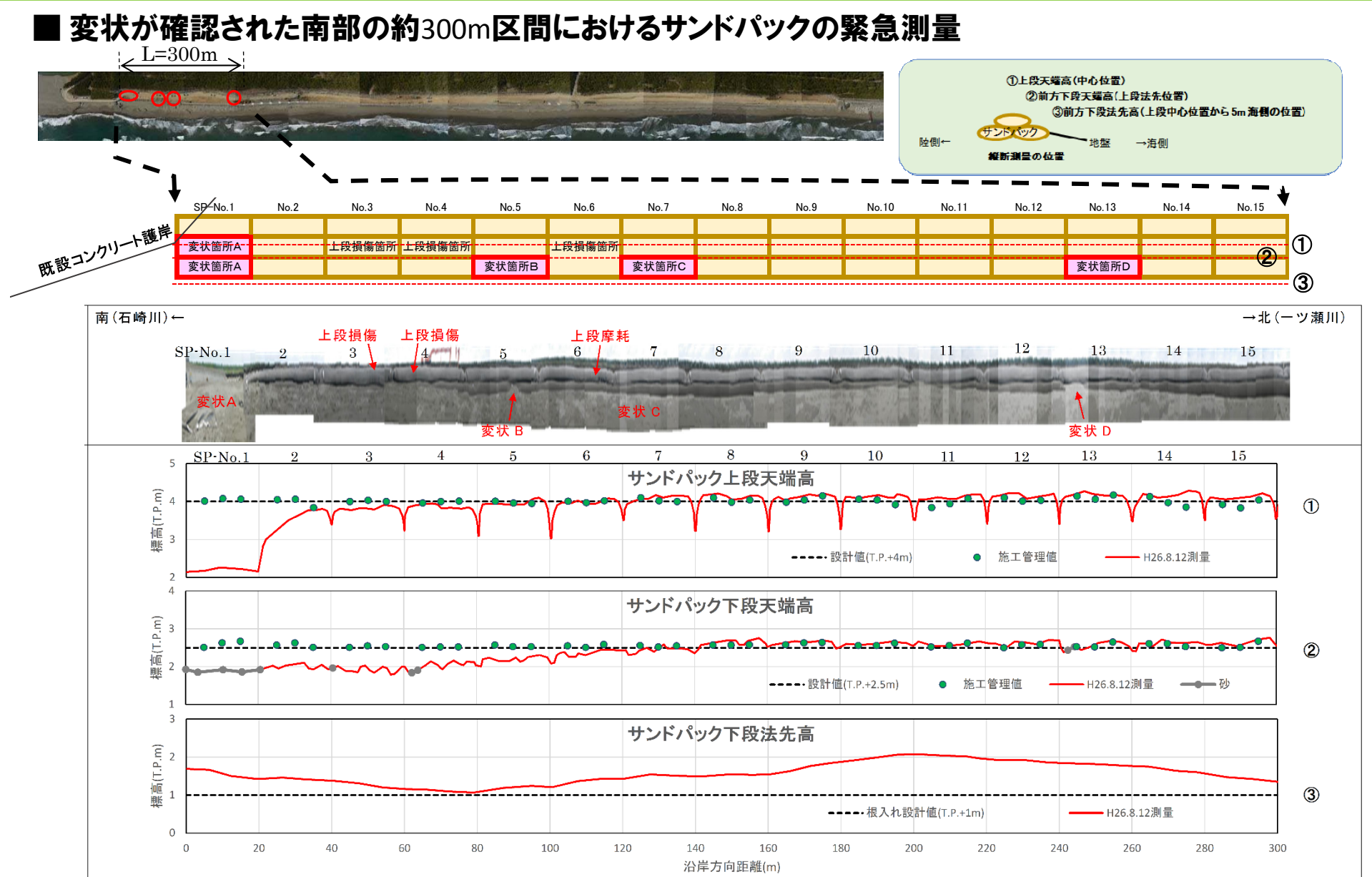
■埋設護岸による浜崖後退防止とサンドバック、アスファルトマットの一部変状

平成26年7月末より来襲した台風12号及び台風11号に伴う高波浪の作用により、多くの箇所でサンドバックが露出したものの、浜崖の後退は防ぐことができた。

しかし、施工箇所南部の約300m区間において一部変状(サンドバックの損傷及び中詰砂の流出、アスファルトマットのめくれ、背後養浜の流出)が生じた。



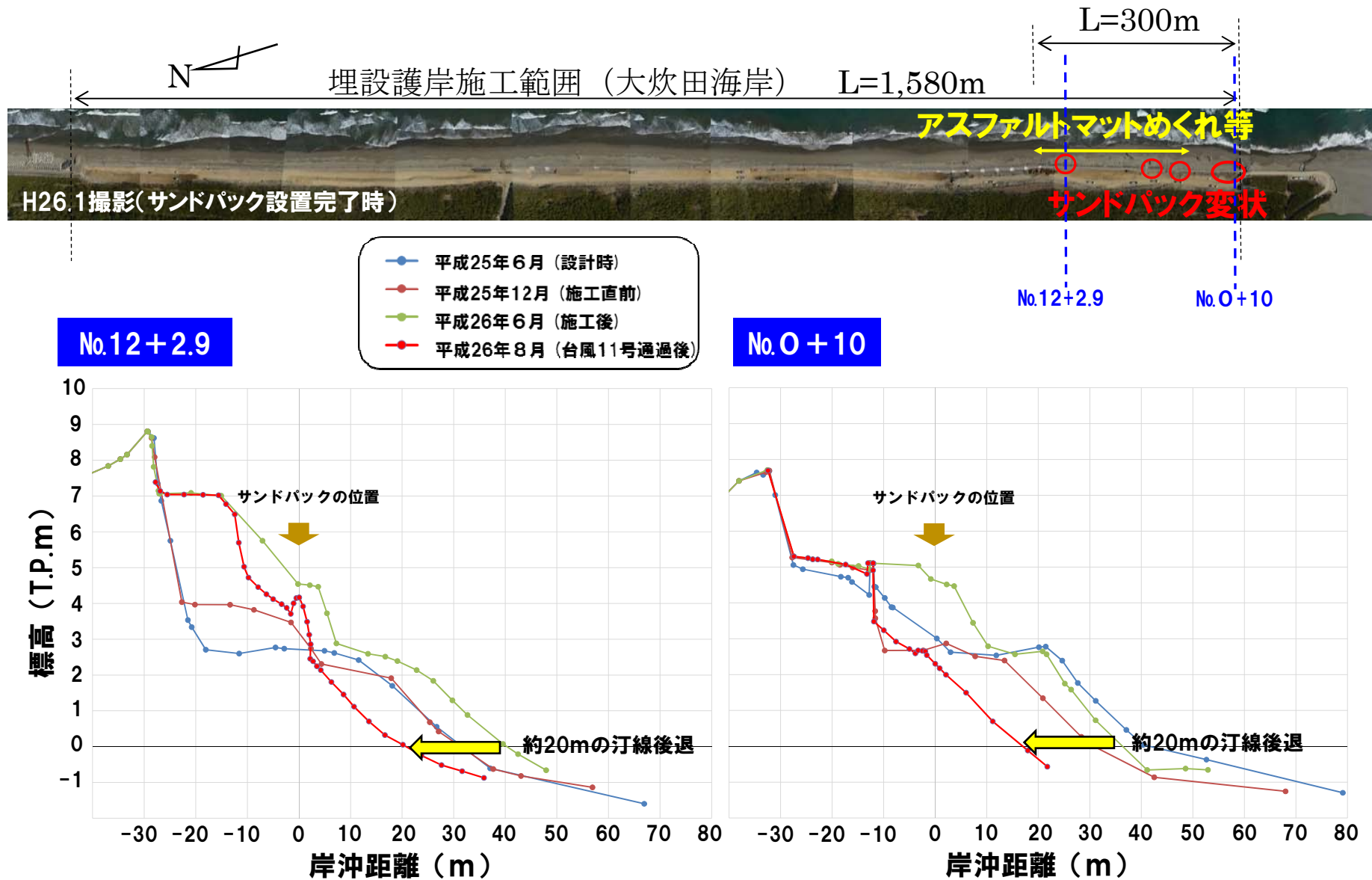
■ 変状が確認された南部の約300m区間におけるサンドバックの緊急測量



(6) 緊急調査

- 45 -

■測量による台風前後の地形変化の把握



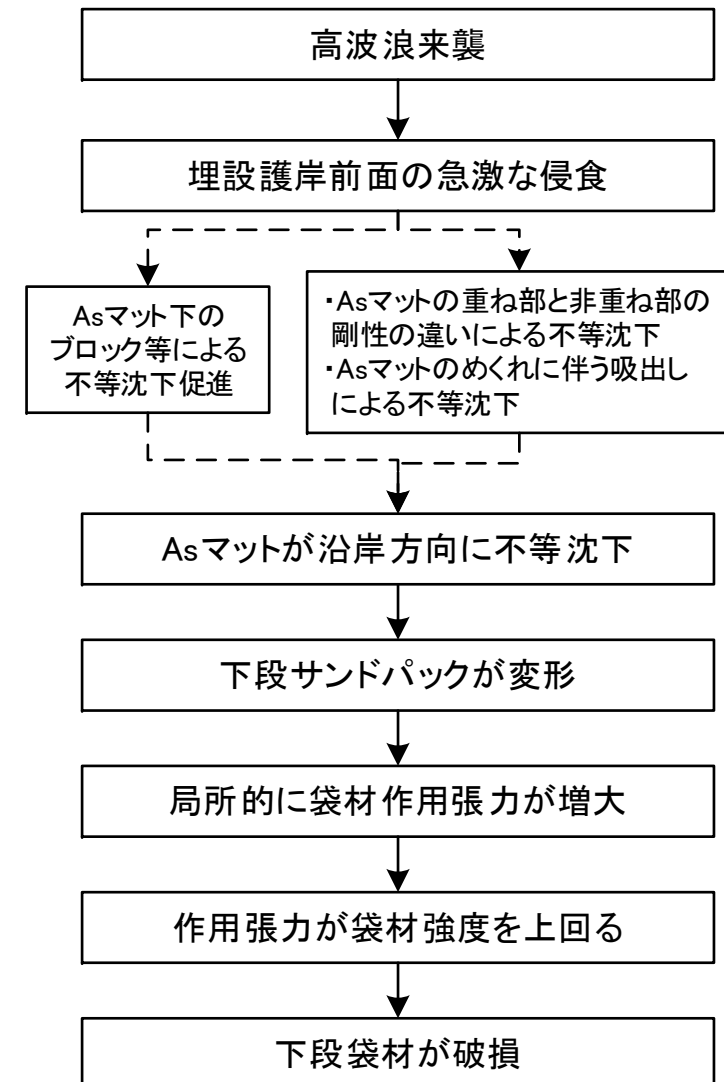
(7) 埋設護岸の変状メカニズムの推定

- 46 -

変状箇所周辺の状況



サンドバックの損傷メカニズム(推定)



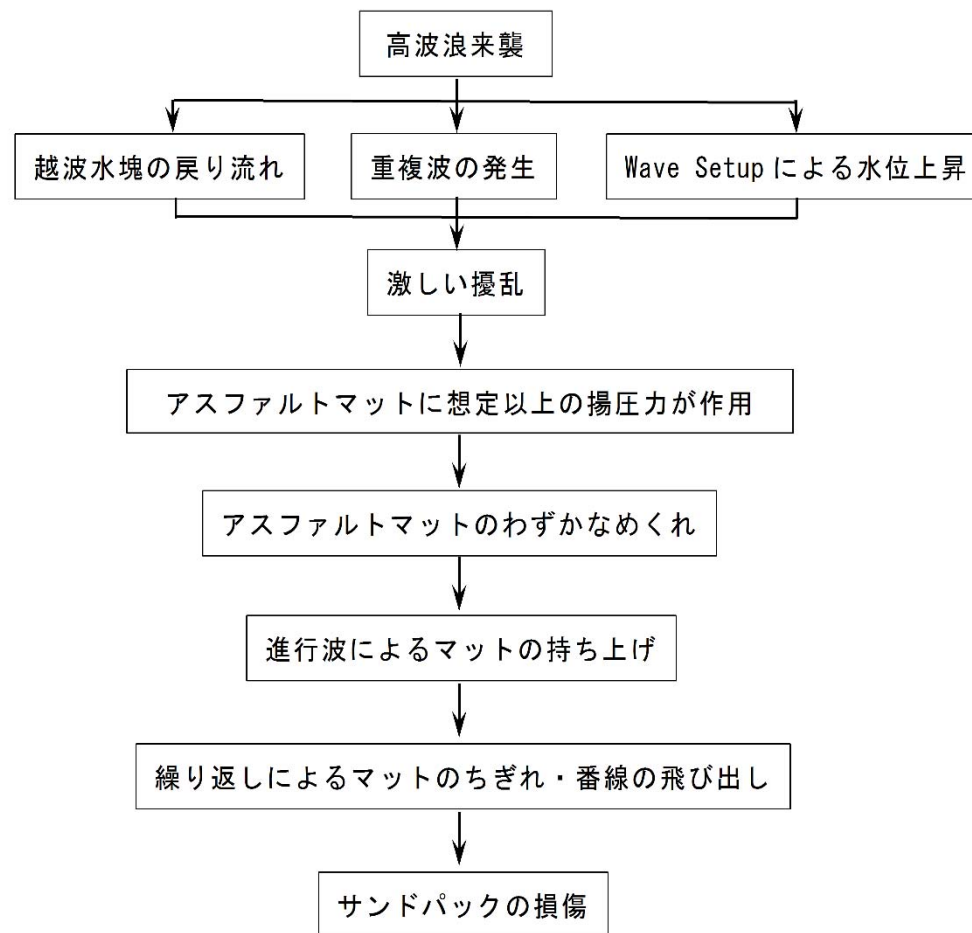
(7) 埋設護岸の変状メカニズムの推定

- 47 -

8月10日の波浪の作用状況



アスファルトマットのめくれ等の損傷メカニズム(推定)



(8) 想定される危険性と立ち入りの規制

- 48 -

想定される危険

ちぎれたアスファルトマットの散乱

アスファルトマットの番線の突出、空洞

大きな溝、高い崖による転倒、落下



立ち入り禁止

この先、埋設護岸(サンドバック工法)の一部変状箇所や
台風11号の高波浪により砂浜に大きな溝や高い崖ができ
ているところがあり、転倒や落下等の事故が起きる恐れが
あるため、立ち入り禁止とします。

◎国土交通省による安全確認が終わり次第、立ち入りを解除します。

なお、解除の時期については未定です。

◎当面の間、皆様にはご迷惑をおかけし大変申し訳ありませんが
ご理解とご協力のほどよろしくお願いします。

問い合わせ先: 国土交通省 宮崎河川国道事務所 宮崎海岸出張所 電話: 0985-62-7050

(8) 想定される危険性と立ち入りの規制

- 49 -

安全性の確保

～ 立ち入りの規制 ～

現 状

- 現状は、埋設護岸が設置されている大炊田海岸全域の立ち入りを禁止している。
- 立ち入りの規制は、段階的に解除していく。



(8) 想定される危険性と立ち入りの規制

- 50 -

安全性の確保

～ 立ち入りの規制 ～

【第1段階】

- サンドバック及びアスファルトマットの変状が確認された大炊田海岸の南区間(L=300m)以外は、同様のサンドバックの変状が起きる可能性が低いと判断した段階で、立ち入り規制を解除する。



(9) 想定される危険性と立ち入りの規制

- 51 -

安全性の確保

～ 立ち入りの規制 ～

【第2段階】

(応急対策工事完了後)

- 南区間(L=300m)において、現在実施中の応急対策工事が完了した段階で、南区間(L=300m)の背後の通り抜けができるように立ち入り規制を解除する。



(9) 想定される危険性と立ち入りの規制

- 52 -

安全性の確保

～ 立ち入りの規制 ～

【第3段階】

(対策完了後)

■ 南区間(L=300m)において対策が完了した段階で、全域の立ち入り規制を解除する。



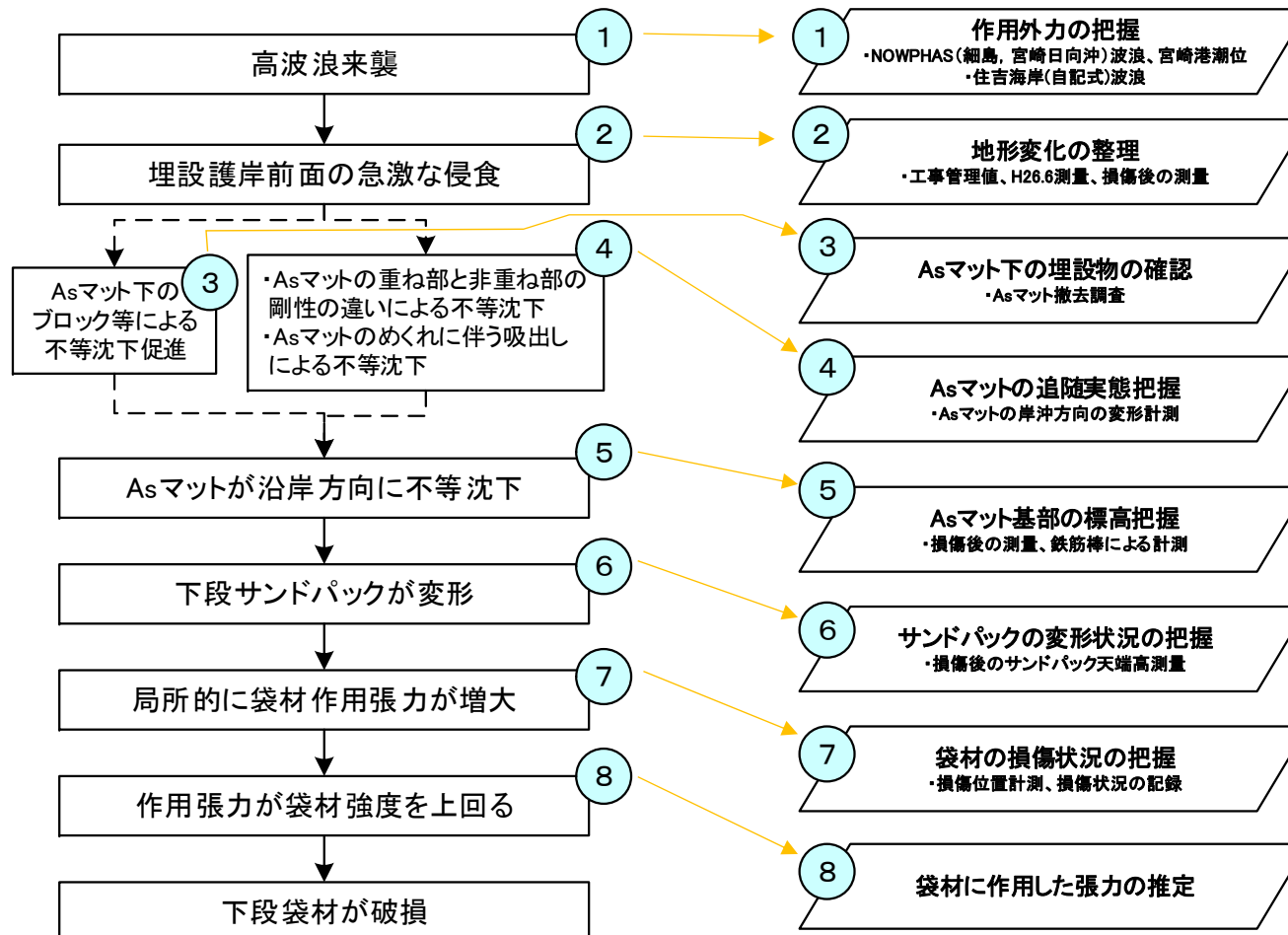
(10)実施すべき詳細調査

- 53 -

■ 変状箇所A(下段サンドパックの中詰材が全流出)の調査項目(案)

サンドパック損傷の推定メカニズム

推定メカニズムを確認するための 現地調査・検討項目



※ ○数字：推定メカニズムと調査検討項目の対応

(10)実施すべき詳細調査

- 54 -



■ 変状箇所B・C・Dの損傷メカニズムの調査項目(案)

サンドバック変状箇所

損傷事項	損傷状況等	調査項目
◇ 漂着物による損傷	変状箇所B・Cは縫製部以外で生じており、漂着物により外部から損傷を受けた可能性がある。	・袋材の損傷状況の把握 ・漂着物の確認
◇ 養浜時の重機接触による損傷	変状箇所B・Cは縫製部以外で生じており、施工時の重機接触により外部から損傷を受けた可能性がある。	・袋材の損傷状況の把握 ・施工状況の確認
◇ アスファルトマットの吊りワイヤー等による損傷	変状箇所B・Cは縫製部以外で生じており、アスファルトマットのワイヤーにより外部から損傷を受けた可能性がある。	・袋材の損傷状況の把握 ・ワイヤー飛び出し位置の把握
◇ 底面空洞化による損傷	サンドバック及びアスファルトマットの底面に空洞が生じたことにより、サンドバックにたわみが生じ、異常張力により損傷した可能性がある。	・袋材の損傷状況の把握

■ 上段サンドバックの損傷メカニズムの調査項目(案)

損傷事項	損傷状況等	調査項目
◇ 物体衝突時の摩擦による損傷	尖った石やAsマット片等の比較的大きな物体がサンドバックに衝突した際に損傷を受けた可能性がある。	・袋材の損傷状況の把握
◇ 物体衝突時の突き刺しによる損傷	Asマットの番線の突き刺しにより損傷を受けた可能性がある。	・袋材の損傷状況の把握

■ Asマットのめくれ・ちぎれのメカニズムの調査項目(案)

損傷事項	損傷状況等	調査項目
◇ Asマットのめくれ・ちぎれ	急激な地盤低下に伴いマットの下面に波浪が入り込み、マットを持ち上げるようにめくれが生じたことが推察される。また、一度めくれたマットが繰り返しめくれることにより、ちぎれが発生したことが推察される。	・めくれ・ちぎれの実態把握 ・発生要因の推定(机上検討) ※ 外力(波浪・潮位)、地形変化状況、めくれ・ちぎれの実態把握調査結果を踏まえ、めくれ・ちぎれが発生した要因を推定。

【原因】

- ・南寄りの波が卓越し、北上する沿岸漂砂が発生したため、損傷は最南端で生じたのではないかと考えられる。
- ・来襲した波浪は非常に大きいわけではないが、急激な侵食が何らかの原因で起きていたことが考えられる。

【効果】

- ・過去に実施した水槽実験でもそうであったが、ある程度越波してもサンドバックが沈下しなければ背後の侵食は大幅に緩和されることが現地で確認された。その観点からは、サンドバックが効果を発揮したと評価できる。

【調査】

- ・アスファルトマットの沈下量、損傷形態及びサンドバックの損傷状況を詳細に調査し、損傷メカニズムを明らかにすることが必要である。
- ・サンドバックの背後やアスファルトマットの下に空洞がないかを把握することが重要である。
- ・南端300m区間だけでなく北側1,300m区間についても測量するなど調査することが必要である。

【対策】

- ・砂が堆積している箇所は、アスファルトマットを発掘し、その状況を見て対応を判断するのが妥当ではないか。
- ・アスファルトマットが損傷した箇所はマットを切断、撤去する。
- ・詳細調査を実施後、対策案を再考する。

4. 宮崎海岸の工事と海岸の状況変化



(1) 宮崎海岸の工事の概要

- 57 -

平成24年度



平成25年度

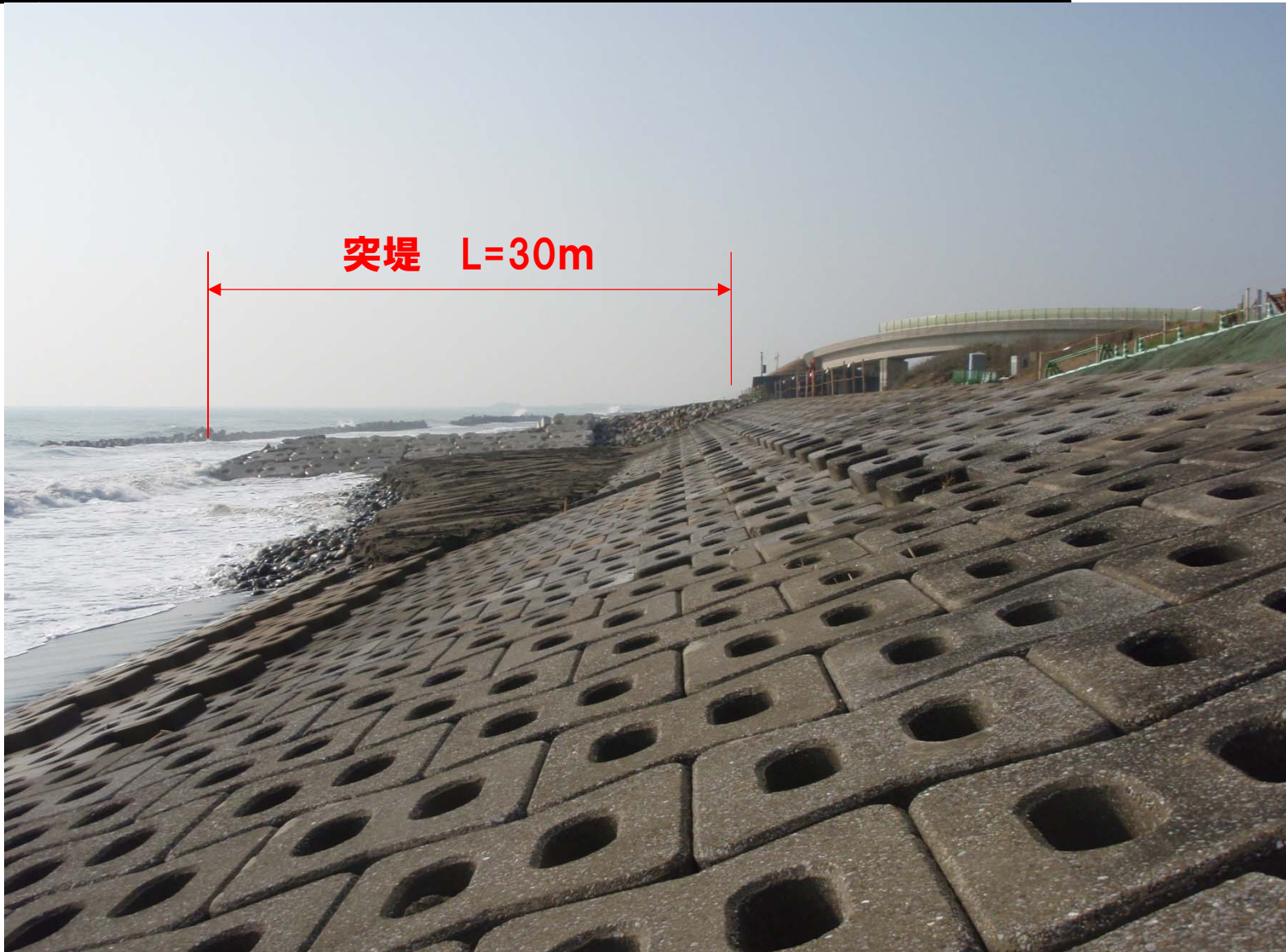


突堤工事と海岸の状況変化

(2) 突堤工事

- 59 -

■平成24年度工事終了時 平成25年2月13日

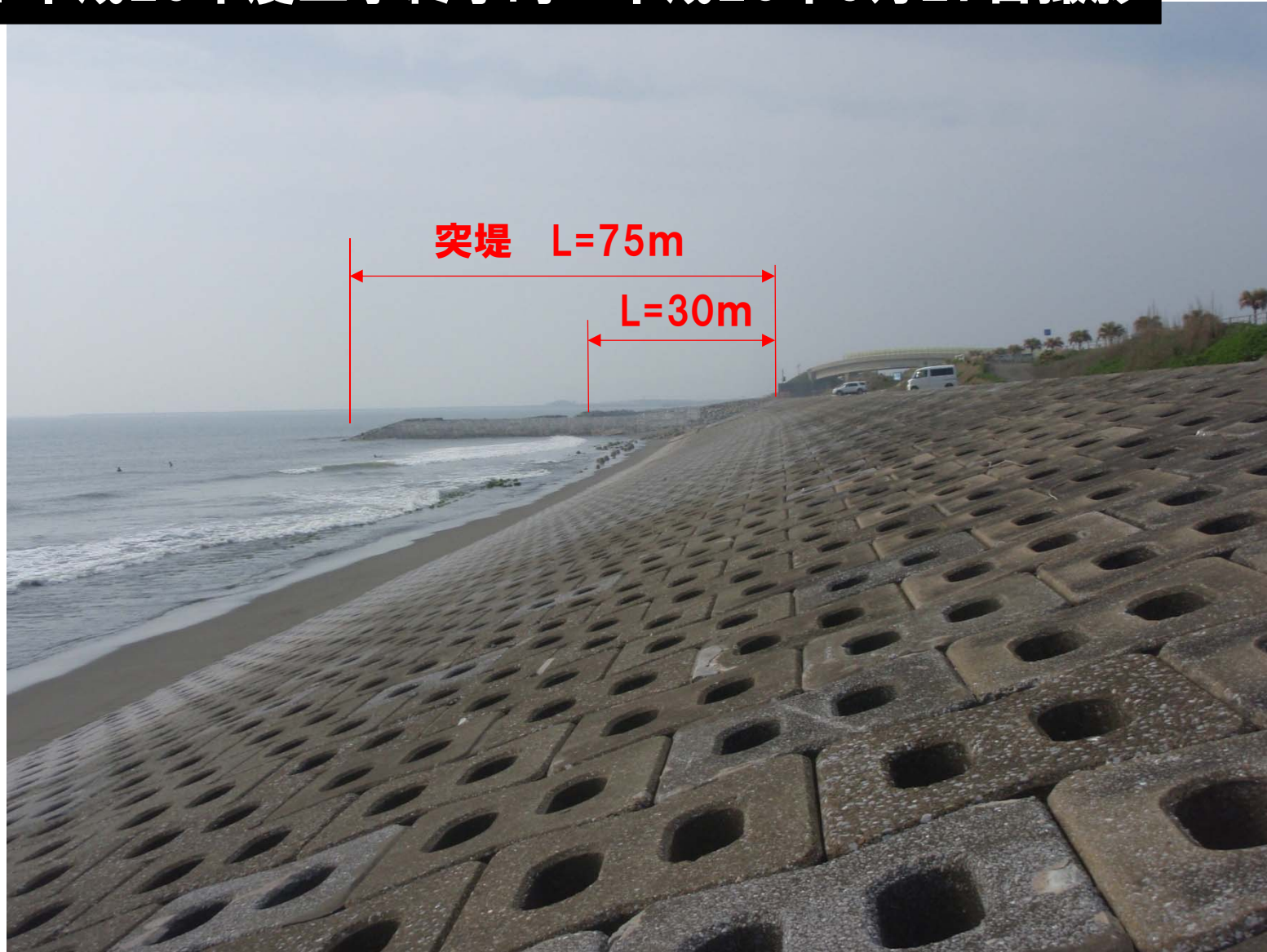


2K200

(2) 突堤工事

- 60 -

■ 平成25年度工事終了時 平成26年3月27日撮影



2K400

(2) 突堤工事

- 61 -

■ サーフィン利用 平成26年5月15日撮影



2K200

(2) 突堤工事

- 62 -

■ 最近の状況 平成26年9月4日撮影



2K400

動物園東の養浜工事と海岸の状況変化

(3) 養浜工事 (動物園東)

- 64 -

■ 平成24年度 動物園東 投入終了直後 平成25年3月6日撮影



4K600

(3) 養浜工事 (動物園東)

- 65 -

■ 動物園東 台風20号来襲直後 平成25年9月26日撮影



4K600

(3) 養浜工事 (動物園東)

- 66 -

■ 平成25年度 動物園東 投入終了直後 平成26年3月12日撮影



4K600

(3) 養浜工事 (動物園東)

- 67 -

■ 動物園 東サーフィン利用 平成26年4月30日撮影



4K300

■ 最近の状況 平成26年9月4日撮影



大炊田海岸の養浜工事、埋設護岸工事 と海岸の状況変化

(3) 養浜工事、埋設護岸工事 (大炊田海岸)

- 70 -

■平成24年度 大炊田海岸 投入終了直後 平成25年2月6日撮影



9K600

(3) 養浜工事、埋設護岸工事 (大炊田海岸)

- 71 -

■ 大炊田海岸 台風20号来襲直後 平成25年9月26日撮影



9K600

(3) 養浜工事、埋設護岸工事 (大炊田海岸)

- 72 -

■ 平成25年度 大炊田海岸 埋設護岸施工中 平成25年11月20日



9K600

(3) 養浜工事、埋設護岸工事 (大炊田海岸)

- 73 -

「埋設護岸」～サンドバック工法～ 現地見学会を開催しました

平成25年12月14日(土)に埋設護岸工事の現地見学会を開催しました。
全国初となるコンクリートではない新たな素材(注)を用いた護岸【サンドバック】について、整備状況をご覧いただきました。

参加者は間近で見たサンドバックに興味津々といった様子で、表面に直接手を触れて質感を確認したり、積極的に質問したりしていました。

また、「コンクリートと比べて効果はどうか」「台風が来ても動かないのか」「効果に期待している」「早く完成して欲しい」など、多くの意見が出ました。

いただいたご意見は、今後、サンドバックを管理していくにあたっての参考としていきます。

現地見学会の様子



地元住民を中心とした約70名に参加いただきました。

サンドバック



参加者は、見た目や大きさ、質感を確認していました。

(注) 素材は、ポリプロピレン。ペットボトルのフタなどに使用されています。サンドバックの表面イメージは、宮崎海岸出張所でご覧になれます。

(3) 養浜工事、埋設護岸工事 (大炊田海岸)

- 74 -

■ 平成25年度 大炊田海岸 覆土終了時 平成26年3月19日撮影



9K600

(3) 養浜工事、埋設護岸工事 (大炊田海岸)

- 75 -

■ 大炊田海岸 埋設護岸の覆土上へのアカウミガメの上陸跡
平成26年5月22日撮影



8 K 550

(3) 養浜工事、埋設護岸工事 (大炊田海岸)

- 76 -

■ 最近の状況 平成26年9月4日撮影



9K600

5. 今後の予定

- 77 -

- 埋設護岸変状 詳細調査 9月中
- 宮崎海岸侵食対策検討委員会 技術分科会
..... 9月末
- 宮崎海岸侵食対策検討委員会 効果検証分科会
..... 9月末
- 宮崎海岸侵食対策検討委員会 10月末
- 次回の宮崎海岸市民談義所 10月末以降

※ 今年度の工事の実施は、本日頂いた意見、上記の技術分科会、効果検証分科会、委員会での協議を踏まえて決定する。

6. その他

宮崎海岸についての市民アンケートを実施しました

～魅力の第1位は「眼前に広がる太平洋」、不満の第1位は「砂浜が狭い」～

○アンケート実施期間

平成26年2月～3月

○アンケート実施方式

対象者無作為抽出、調査票郵送送付・郵送回収

○アンケート対象者

宮崎市内(旧宮崎市、旧佐土原町、旧清武町)にお住まいの20歳以上80歳未満の方
(2,000人に送付した結果、623人から回答をいただきました。)

○アンケート属性設定

性別、年齢、宮崎市での居住年数、居住地域(旧市町別に日豊本線より海側か陸側か)



高岡、田野を除く海岸近くの旧市町(佐土原、宮崎、清武)に配布(図中黄色範囲)

・市全体に占める割合＝94%

・各地区別内訳＝

宮崎 86%、佐土原 9%、清武 5%

※平成26年1月1日現在の20歳～79歳の地区別人口割合

宮崎河川国道事務所では、「宮崎海岸の侵食対策」が本格的に始動したことを機に、今後の事業実施の基礎資料とさせていただくため、宮崎市内にお住まいの皆様2,000人を対象に「宮崎海岸侵食対策事業に伴う市民意識アンケート調査」を実施しました。

その結果623人から回答をいただき、そのうち半数近い方々には自由記述欄に思い出話等を御記入いただくなど、関心の高さを伺うことができました。御協力いただいた皆様に感謝を申し上げますとともに、事業実施にあたっての参考とさせていただきます。

特に、不満の第1位は突出しており、約40%の方々が「砂浜が狭い」と回答されています。「宮崎海岸の侵食対策」は、安全・安心の確保と環境・景観・利用への配慮を両立するために砂浜の回復を基調とした計画となっていますが、当事務所では今後も引き続き事業の進捗を図り、これらの声に応えていきたいと考えております。

(2) 宮崎海岸 Publication(ホームページ)のリニューアル (平成26年4月) - 80 -

宮崎海岸のホームページをリニューアルしました

